

「霞ヶ浦導水事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 26 年 3 月 2 日（日）13:26～13:36

霞ヶ浦導水工事事務所 2F 第一会議室

発言者：意見発表者 3

鹿嶋市在住の●●と申します。自宅が北浦湖畔の近くであることや、私が生まれる少し前は、霞ヶ浦に海水浴場がたくさんあって賑わっていたという話を祖父母から聞いて、前々から昔の霞ヶ浦は泳げるほどきれいだったということについて、半信半疑ではありますが、関心を持っていました。

先日、たまたまネット検索をしていたら、霞ヶ浦導水事業の検証に係る検討報告書について意見を述べさせていただける機会があることを知り、今回申し込みさせていただきました。北浦湖畔に住む素人の意見ではありますが、参考にさせていただければ幸いです。それでは意見を述べさせていただきます。

私からの意見は 2 点です。1 つ目は、霞ヶ浦の浄化のため行う那珂川からの導水は、高浜への 1 箇所だけでは駄目なのではないでしょうか、ということです。報告書の 4-17 項を拝見しますと、霞ヶ浦よりも水質が良好な那珂川、利根川の河川水を導入することによる希釈効果により水質浄化を図ると書いてありました。きれいな水を霞ヶ浦に入れて、汚い水を薄めるということは感覚的に理解出来るのですが、それなら那珂川と利根川の各 1 箇所からきれいな水を霞ヶ浦に入れれば良いのではないかと単純に考えます。何か難しい計算があつて、那珂川からは高浜と土浦の 2 箇所に導水しないと効果がないとか、高浜だけへの導水では効果が半減してしまうなどの理由が報告書に書いてあるか探したのですが、私が拝読したところは見当たりませんでした。それではなぜ私がこのような意見を持っているかということをし説明させさせていただきます。報告書の 3-8 項を拝読しますと、土浦トンネル約 11.6 km は未着手、土浦トンネル区間では、区分地上権の設定が 0% という記載に目が留まります。また、同じ項に霞ヶ浦導水事業費のうち平成 25 年 3 月末において、約 1,487 億円が実施済みとの記載がありますが、報告書の 4-2 項には事業費は 1,900 億円と書いてありましたので、すでに約 80% の事業費を使ってしまうと読み取れます。残り 20% の予算しかないのに、約 30% しかでき上がっていない石岡トンネルを完成させた上に、本当に土浦トンネルまで予算内で完成させることができるのでしょうか。感覚的に釈然としません。アベノミクスやら消費税増税やら東京オリンピック関連投資やらでどんどん物価も上昇していくことが明らかな今のご時世では、余裕を持った資金計画が必要なのではないのでしょうか。よく公共事業は、小さく産んで大きく育てるなどと陰口をたたかれますが、ぜひ、あとからやっぱり予算が不足するので予算を増額しますとか、工事が難しいので完成時期を遅らせますなどということがないように、せめて霞ヶ浦の浄化のため行う那珂川からの導水は、高浜への 1 箇所だけに事業を縮小してでも、予算を絶対にオーバーしない、場合によっては予算を余らせて税金を節約してみせるという英断を湖畔に住む住民のひとりとして期待します。

意見の 2 つ目は、支払い意思額平均値についてです。報告書 5-1 項にアンケート調査の結果、霞ヶ浦では支払い意思額平均値が、1 世帯あたり月に 417 円と書かれていました。これは素直に読むと 1 世帯あたり年間 5,000 円のお金を霞ヶ浦をきれいにするために使ってもよいと思っているということですが、これを根拠に費用対効果分析をしているということを知って私は唖然としました。年間 2,3,000 円の町内会費を納めるのをためらう住民が多い中で、私のように湖畔に住んでいる者ならまだしも、霞ヶ浦から 40 km 圏内の 2,047,492 世帯に 1 世帯あたり年間 5,000 円を掛け算して事業の効果を計算するとは、まあこれは驚きです。この計算方法を見ていると、逆に無駄な事業で

あることを証明して、事業を中止したいのかとさえ勘ぐりたくなります。

霞ヶ浦がきれいになることは良いことです。そのために莫大なお金が掛かるのも理解できます。しかし、その効果を支払い意思額平均値という得体の知れない数値で評価することが全く理解ができません。頭が良いと言われている霞ヶ関の高級官僚が考えた手法とはとても思えません。それとも単純に欧米の研究成果を国民性も全く異なる我が国にそのまま和訳して適用してしまったのでしょうか。であるならば、防衛費などもこの支払い意思額平均値なるものでぜひ効果を評価してほしいものです。おそらく意味のない結果が算出されると思いますが、そもそも霞ヶ浦がきれいになることだけを価値とするならば、極端な話、人が住まなければいいのです。まるで環境原理主義みたいな話になってしまいます。評価すべきは霞ヶ浦がきれいになると、地域にとってどんな良いことがあるのか、ということではないでしょうか。最初にお話しさせていただきましたが、昔のように海水浴場が復活して夏の観光客がたくさん訪れ、宿泊してお金をたくさん使って地域が潤うとか、日本一のウインドサーフィンのメッカになって一年中たくさんサーファーが集まって賑わうとか、湖畔別荘地がたくさん出来たり、湖畔に定住する人が増えて固定資産税が増えたり、人口減少に歯止めが掛かるとか、色々評価すべき効果はあるのではないのでしょうか。国土交通省さんの政策には、観光立国なるものがあるそうですが、昔のトンカチ官庁と言われた建設省から、政策官庁である国土交通省に脱皮して造るだけではなくて、造ったものを活かした地域振興や観光振興にも、ぜひ、戦略的に取り組んでいただきたいと思います。そのためには、ぜひ、都道府県の魅力度ランキング最下位常連の茨城県と自ら認めている自虐的なホームページを公開している茨城県巻き込んで、茨城県の今後のあるべき姿としての地域振興や観光振興への効果を算定して、事業の効果とすべきと考えます。

繰り返しますが、霞ヶ浦をきれいにすることが最終目的ではなく、霞ヶ浦をきれいにしたら地域はこんなに活性化するというを明確に効果として謳うべきだと思います。公共事業とは、そもそもそういった類いのものだと私は思います。以上の2点が私の意見です。ご清聴ありがとうございました。